

# 令和5年度自己評価表【最終】

【学校教育目標：自ら学び、心豊かで自己表現できる生徒の育成】

江田島市立三高中学校

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標	実績値	目標値	評価(自己評価の結果)		改善策
					令和4年度	令和5年度	令和5年度(上半期)	令和5年度(下半期)	
確かな学力	課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成する。	基礎・基本の定着を図る。	江田島市学力調査	正答率(数・英) (令和5年度12月調査の出版社の目標値と全国平均との比較)	【現2学年】 数48.3% (目標値53.4 市 51.2 全国 50.9)  英43.4% (目標値54.0 市 54.2 全国 51.4)	出版社が設定する目標値を上回る。	R5年度12月実施予定  【3年生】 【全国学力・学習状況調査】 国66%(県70 市62) 数63%(県49 市42) 英43%(県43 市40) *英のみ9名実施	【現2学年】 数38.8% (目標値52.8 市 46.2 全国 50.1)  英43.8% (目標値50.2 市 45.6 全国 49.5)	【江田島市学力調査結果における課題から】 数：1次関数の領域において、表・式・グラフの基礎的な力が定着していない。 →変化の割合が、表・式・グラフにおいて、どのような意味をもつか理解をもち、関連しているのか理解させ、繰り返し問題演習をする。 英：「書くこと」の領域において、与えられた情報から自分の考えとその理由を表現できていない。 →基礎的な単語テストやその活用を授業で繰り返し復習し、英語で作文できる段階へと活動をつなげていく。 ↓ ・改善計画を作成、個々に応じた取組及び授業改善を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全教科で ・ペア等で自分の考えを書き、説明する場面の設定 ・小テスト等で繰り返し学習 (紙媒体のドリルを、効果的に活用)</div>
		確かな学力を向上させる。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	生徒アンケートにおいて、「よくあてはまる」と回答した割合 ・話し合い活動は、学習内容の理解につながっている。 ・学習の振り返りにおいて、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えている。	( )は肯定的回答割合 44.0% (11人/25) (96.0%) 16.0% (4人/25) (80.0%)	63%以上 (12人/19)  36%以上 (7人/19)	47.4% (9人)  21.1% (4人)	47.4% (9人) (100%)  21.1% (4人) (89.5%)	・各教科で指導や発問を工夫し、生徒主体で探究的な学習を進める。 ・話し合う視点を共有し、自分の考えをもって活動できるようにする。また、話し合い活動にもICTを活用し、効果的な活用方法の共有を適宜行う。 ・振り返りの視点を明確にし、フィードバックを行うなど、今後の学習へつなげる。
豊かな心	「時を守り、場を清め、礼を正す」ことの意義を理解し、自ら実践できる生徒を育成する。	場を清めること、時を守ること、あいさつ、返事の意義を理解しながら実践し、社会でも通用する生徒を育成する。	「時間を守る」「整理整頓・掃除をする」「あいさつ・返事をする」(3項目)の徹底	生徒アンケートにおいて、「よくあてはまる」と回答した割合 ・時間を守って行動している。 ・気持ちのよいあいさつができる。 ・呼名に対して、「みたか」の返事をしている。	( )は肯定的回答割合 44% (11人/25) (98%) 36% (9人/25) (80%) 36% (9人/25) (84%)	50%以上 (10人/19) 58%以上 (11人/19) 50%以上 (10人/19)	68.4% (13人)  52.6% (10人)  47.4% (9人)	73.7% (14人) (94.8%) 63.2% (12人) (100%) 52.6% (10人) (100%)	・良い所は引き続き教員が肯定的評価を行うだけでなく、生徒会執行部や委員会による表彰等により、生徒同士が良さを認め合える場を設定する。 ・この数値を参考にして新生徒会の取組につなげていく。 ・否定的解答の生徒を周りの生徒中心にどう良い方向へ巻き込むか検討していく。
	生徒指導の三機能を生かし、生徒の自主的、実践的な態度を育成する教育活動を充実させる。	道徳教育を基盤として、学校行事、生徒会活動、部活動等を進めるとともに、教育活動に生徒指導の三機能を位置づける。	生徒の自主的な教育活動を通じた、自己指導能力の育成	生徒アンケートにおいて、「よくあてはまる」と回答した割合 ・委員会の活動を主体的に取り組んでいる。 ・部活動に参加し、目標をもって活動している。 ・生徒会行事や学校行事では、自ら行動している。	( )は肯定的回答割合 24% (6人/25) (80%) 56% (14人/25) (88%) 24% (6人/25) (76%)	58%以上 (11人/19) 78%以上 (15人/19) 42%以上 (8人/19)	52.6% (10人)  68.4% (13人)  42.1% (8人)	57.9% (11人) (100%) 63.2% (12人) (89.5%) 47.4% (9人) (94.8%)	・新生徒会に移行していく中でも主体的に委員会を運営できるようにしていく。 ・部活動を頑張っている生徒は多いように見える。良い面・悪い面を声掛けしながら目標をより明確にしていく。 ・先輩は後輩に、後輩は先輩にできることをそれぞれが主体的に考えて取り組んでいく。
健やかな体	組織的に体力づくりを推進する指導体制・方法を構築する。	運動有能感の向上へ向けた体力づくりの取組を推進する。	マネジメントサイクルに基づく、組織的・系統的な業間運動の取組等の推進	生徒アンケートによる、運動有能感の合計の平均得点 (「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」の合計48点)	35.2	38以上	34.8	36.6	・「運動を継続すれば技術の向上」や「粘り強さ」は前回よりも向上することができた。 ・縦割りで関わることで深い学び、主体的な活動を行えるようにしていく。
その他	教職員の服務規律の厳正確保を図り、信頼される学校づくりに努める。	働き方改革を意識し、行事の精選や業務内容の効率化を図り、教職員がゆとりを持って校務を遂行する。	働き方改革の推進	・時間外勤務時間は月当たり45時間を超えない。  教職員アンケートによる肯定的回答割合 ・生徒と向き合う時間が確保できている。 ・職務にやりがいを持ち、充実感がある。	69.2% (9人/13) 91.7% (11人/12) 92.3% (12人/13)	75%以上 (9人/12) 100% (11人/11) 100% (12人/12)	75% (9人)  100% (11人)  100% (12人)	83.3% (10人) 100% (11人) 100% (12人)	・定時退庁日の活用徹底。 ・積極的生徒指導の継続。 ・授業時数が過度に超過することがないように管理する。 ・生徒の体験活動等引き続き新たなチャレンジを取り入れることで生徒の成長を実感し、教職員自身も自己有用感や達成感を持つことができるよう一丸となって取り組む。
		積極的に情報発信を行い、保護者から通わせたい学校づくりを推進する。	地域・家庭への情報発信・受信 (学校だより、保健だより：月1回以上発行、HP：週1回以上更新)	保護者アンケートにおいて、「よくあてはまる」と回答した割合 ・教育活動に満足している。	60.0% (15人/25) (肯定100%)	63%以上 (12人/19)	72.2% (13人/18)	68.4% (13人/19) (肯定100)	・学校だより等の受取手を意識した発信内容の質の向上やHPのタイムリーな更新で学校の取組を保護者・地域にお知らせする。 ・生徒指導上の課題等に対して、早期の対応や事後も丁寧な保護者連携を継続して行い、さらに相談しやすい関係づくりをすすめる。